

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 120人

② 算数 120人

③ 理科 120人

5 留意事項

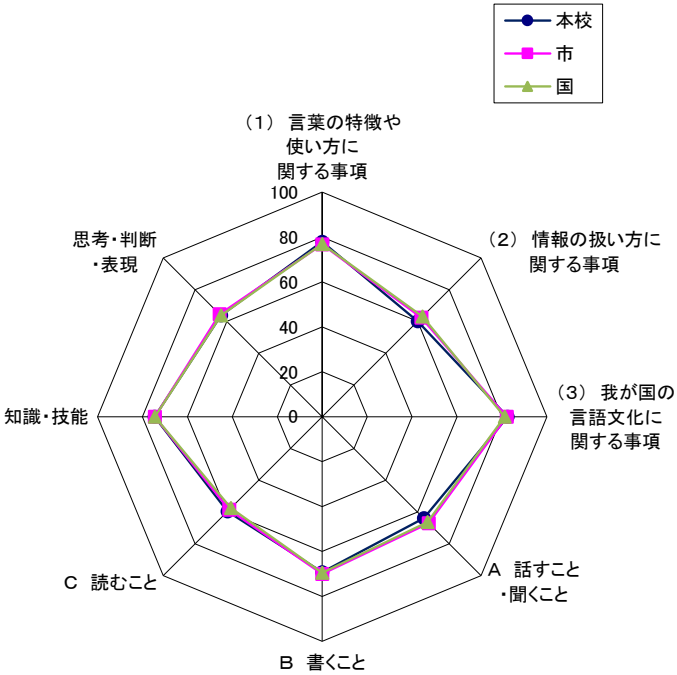
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.9	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	63.9	67.0	66.3
	B 書くこと	69.2	70.0	69.5
	C 読むこと	59.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	74.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	63.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

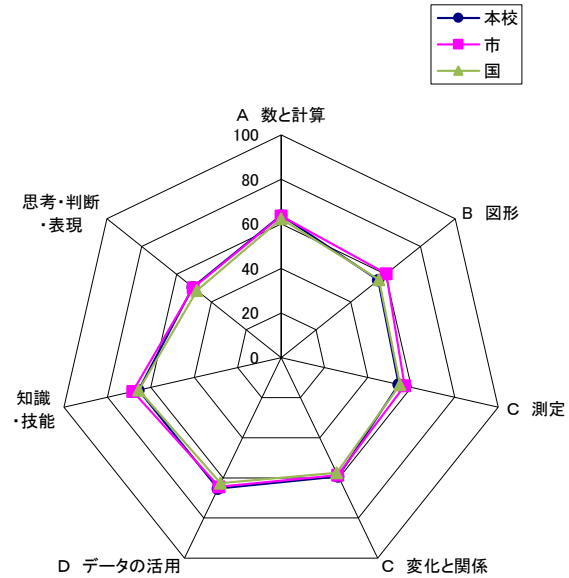
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率をやや上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●平均正答率は上回っているものの問題によっては正答率に差があり基礎・基本の定着が必要である。	○今後も基礎的・基本的な学力を習得するために、漢字の読み書きなどの反復練習を継続していく。無回答の児童もわずかがいるため、個に応じた指導の充実を図っていく。 ●漢字の読み書きだけではなく、言葉の意味を調べる活動や実際に新しく学習した言葉を文章の中に組み込んで文章を作る活動を行う。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使う問題では、国の平均正答率を下回っている。	●多くの文章問題に取り組む中で、読み取ったことを分かりやすく書く活動を取り入れる。相手に情報を正確に伝えたり、聞き取った情報を正確に理解したりする力につなげる力を育むことができるようにする。また、複数の資料から読み取ったり、比較したりする活動を取り入れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率をやや上回っている。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題では、国の平均正答率をやや上回っている。	●日頃から読書や様々な言葉に親しみ、言葉のもつよさを感じることができるようにする。また、読む活動だけでなく、感想を伝え合ったり、感じたことや考えたことを伝え合ったりする活動を取り入れることで、読書や様々な言葉にふれることへの関心を高めていけるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、国の平均正答率をやや上回っている。 ●話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題や日常生活の中から話題を集め、伝え合う内容を検討する問題では、国の平均正答率を下回っている。	●今後も、授業において話し合い活動を積極的に行い、自分の考えを伝えるための話題の集め方や展開の仕方を意図的に指導していく。 ●自分の意見をもたせ、伝えたいことが明確に相手に伝わるように、言葉の選び方や文脈、文の構成の仕方を考えさせる力を育むことができるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○図表などを用いて、自分の考えを伝えるように書き表し方を工夫する問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●内容のまとまりや段落の相互関係、文章の構成を考える問題や目的や意図を考える問題では、国の平均正答率を下回っている。	●事実と感想、意見などを区別しながら文章全体の構成を捉えることを授業でより多く取り入れていく。また、自分の考えを書く際には、目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別するだけではなく、内容のまとまりにも注目させながら書くように指導する。
C 読むこと	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付ける問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●また、無回答率も14.2%と他の問題と比べ、割合が高くなっている。	●自分の考えを伝え合う活動を取り入れることで、自分の考えを広げることに加え、他者の意見と比べたり、それを踏まえた上で発表したりする力を高めていく。 ●無回答の児童もいるため、書くことの抵抗感を軽減するために、短い時間や文字数で作文を書けるようにする。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.9	63.6	62.3
	B 図形	55.8	60.4	56.2
	C 測定	54.2	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.2	58.6	57.5
	D データの活用	65.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	65.6	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.7	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

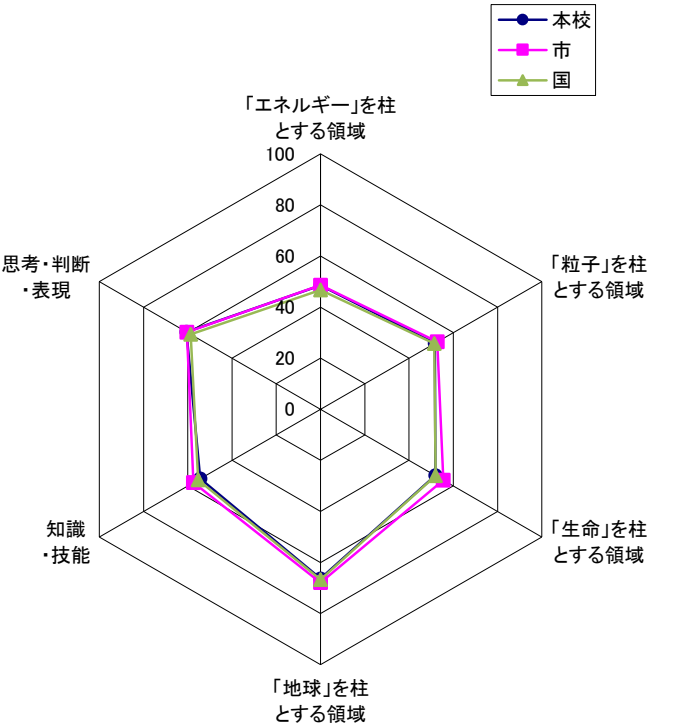
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○小数のたし算、分数のたし算の問題では、国の平均正答率をやや上回っている。基本的な計算の知識・技能は概ね定着している。 ●分数のたし算について、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて説明する問題では、国の平均正答率を上回っているが、24.2%とかなり低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習の時間にドリルやプリントを活用して習熟を図ったり、AIドリルで個に応じた学習を取り入れたりしながら、基本的な計算の定着に向けた練習を継続していく。 ・計算の結果や正誤だけにこだわるのではなく、なぜそうなるのか話し合ったり、説明したりする活動を授業に取り入れる。
B 図形	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○平行四辺形の作図の仕方、台形の意味と性質、基本図形に分割した面積の求め方についての問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●角の大きさについての問題では、国の平均正答率を下回っている。角の大きさの理解について課題が見られる。	・朝の学習の時間や授業の導入部分において、角や辺などの図形を構成する要素や三角定規やコンパスの使い方、基本的な図形の性質、作図の仕方、面積の求め方について再確認する。
C 測定	平均正答率は、国の平均正答率をやや下回っている。 ○問題を解決するための必要な数量を見だし、知りたい数量の求め方を式や言葉で記述する問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●はかりの目盛りを読む問題では、国の平均正答率を下回っている。はかりの目盛りを読むという基本的な技能に課題に見られる。	・はかりの目盛りを読む等の基本的な技能など十分な定着が見られなかったものについて、具体物を活用しながら確認して定着を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○伴って変わる数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題の平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ●10%増量の意味についての問題では、国の平均正答率をやや下回っている。また、正答率が40%と低い。	・増量や減量などの問題については、増量や減量の意味を確認するとともに、解釈の仕方や何%増量や何%減量ももとの量の何倍になっているのかなどについてもう一度確認する。 ・正答率の低い難易度の高い問題については、授業で問題を取り上げ、解決方法を話し合うことを通して理解を深められるようにする。
D データの活用	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○目的に応じて適切なグラフを選択し、内容を読み取って説明する問題や2次元の表から条件に合った項目を選ぶ問題の平均正答率は、それぞれ国の平均正答率を上回っている。 ●棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、国の平均正答率を下回っている。	・社会科の授業などにおいて、様々なグラフから関係や内容を読み取る活動を積極的に取り入れ、グラフを読み取る技能を高める。 ・授業の中でデータを読み取って捉えたことを伝え合う活動を取り入れ、必要な情報を読み取れているかを確認し、読み取る力を高める。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	51.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	51.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.3	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	60.6	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識を問う問題では、83.3%と高く、国の平均正答率を上回っている。 ●電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することができるかについての問題では、国の平均正答率を下回っている。	・電磁石の仕組みについての基本的な知識は概ね定着している児童が多いため、その知識を応用させることでさらなる定着を図る。 ・実験を行った際には、ノート記述や話し合い活動を通して、実験方法の振り返りや、言語化の機会を設け、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○水の温まり方について、問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかについての問題では、国の平均正答率とほぼ同じであるが、10.8%とかなり低い。	・実験を通して、金属は電気を通すが、その中でも磁石に付くのは鉄のみであるという基礎知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能についての問題では、国の平均正答率を下回っている。	・顕微鏡の各部の名称やそれぞれの操作方法などについての基礎知識を再確認する。また、実際に操作をしたり、実験で使用したりすることを通して、知識の定着や応用する力の育成を目指す。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかの問題では、85%と高く、国の平均正答率を上回っている。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果をもとに結論を導いた理由を表現することができるかの問題では、国の平均正答率を下回っている。	・実験についての知識は定着しているが、その結果から論理的に考えたり、考えたことを表現したりすることに困難があると予想できる。国語の授業などとも関連付け、想像したり、言語化したりすることへの抵抗感を軽減していけるような指導を行う。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○生活面では、「朝食を毎日食べている。」と肯定的な回答をした児童の割合は97.6%で、全国平均を3.9ポイント上回っている。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」と肯定的な回答をした割合が88.1%で全国平均を6.2ポイント上回り、「毎日同じくらいの時刻に起きている。」と肯定的な回答をした割合が92.9%で全国平均を1.9ポイント上回っていた。このことから、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことが伺える。今後も、この良好な生活習慣を維持・発展させ、学習意欲の向上や心身の健やかな成長へと繋げていくために、家庭との連携を強化し、食育や睡眠の大切さについて指導を深めていきたい。	
○学校生活に関しては、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」と肯定的な回答をした割合は96.8%で全国平均を4.6ポイント上回り、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」と肯定的な回答をした割合は86.5%とで、全国平均を15.9ポイントを上回っていた。このことから、友達や先生との信頼関係が構築されつつあると考えられる。今後も、児童同士、そして児童と教職員間の信頼関係をさらに深めるために、個に応じた声かけや教育相談の定期的な実施など、相談しやすい雰囲気づくりを継続していきたい。	
○家庭学習では、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上時間勉強している。」と回答した児童が60.4%おり、全国を12.2ポイント上回っていた。このことから、本校児童の学習意欲の高さが伺える。今後も、この高い学習意欲をさらに伸ばすために、家庭学習の習慣化を支援するとともに、一人ひとりの児童の学習状況に合わせたきめ細やかな指導を行っていきたい。	
○「ICT機器を活用して楽しみながら学習を進めることができる。」と肯定的な回答をした割合が89.7%で全国平均を4.2ポイント上回っていた。このことから、本校の児童はICT機器を活用した学習に対して高い関心を示していることが分かる。今後も、児童のICTリテラシーの向上を図り、より効果的な学習へと繋げていくため、ICT機器を授業に取り入れる機会を増やし、児童が主体的に学習に取り組めるような環境を整備していきたい。	
●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」と肯定的な回答をした児童は77.8%で、全国平均を1.6ポイント下回っている。このことから、本校では、各教科で学んだ知識を生かし、新たな問題解決につなげる力の育成に努める必要があると考えられる。今後は、各教科間の関連性を意識した学習活動の実施や自分の考えを表現する機会の意図的な設定を図り、児童が各教科で学んだことを結びつけ、新たな問題に対しても自分の考えをしっかりと次の学習に繋げていけるように支援していく。	
●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上時間勉強している。」と回答した児童が15%で、全国平均を6.5%下回っている。今後は、休日の家庭学習の習慣化を支援するとともに、一人ひとりの児童の学習状況に合わせたきめ細やかな指導を行っていきたい。	

宇都宮市立横川東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを広げ深めるための交流の場の設定や発表方法の指導	・「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の項目での肯定的回答割合は、国と県を上回っている。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の項目での肯定的回答割合は、国と県を上回っていたが、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目では、肯定的割合は、国と県を下回っている。
基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・国語の知識・技能分野の平均正答率は、74.6%で国と県を上回っている。算数の知識・技能分野の平均正答率は、65.6%で国を0.4ポイント下回り、県とほぼ同じである。
家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上時間勉強している。」と回答した児童が60.4%おり、県平均を6.4ポイント、全国を12.2ポイント上回っていた。しかし、休日1時間以上勉強していると回答した児童は、15%で、国、県を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
情報を正確に理解し、関係を適切に表す問題や話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題では、県や国の平均正答率よりも低いものがあった。	・文章やデータを正確に読み取り、自分の考えを広げ深めるためのまとめ方や交流の場の設定。	・自分の考えを言語化する活動の設定。 ・文章やグラフなど資料から分かることを書いたり話し合ったりする活動の充実。 ・教科横断的な視点に立った授業の工夫。